

関連学会印象記

第33回日本集中治療医学会学術集会

公文啓二*

第33回日本集中治療医学会学術集会は、グランキューブ大阪(大阪国際会議場)に11会場ならびにポスター会場を設け関西医科大学第二内科・心臓血管センター教授岩坂壽二会長のもと、「こころ・集結・明日の集中治療」をメインテーマに平成18年2月2日から4日の3日間開催されました。参加者は医師部門1803名、看護部門1473名、臨床工学部門130名で3300名を超える多数の参加者を集め盛會裏に終了いたしました。会長の所属する関西医科大学ではこの1月に大阪枚方の「天の川」の地で新病院をオープンされたことに関連して会長の挨拶等々には星座に因んだ譬がしばしば見受けられました。

医師、看護師、臨床工学士合同部門の特別企画とされた「心臓救急への取り組み」と題した会長講演は、わが国で胸痛センターを最初に導入し絶大な成果を収められた先生の循環器疾患救急医療への先生の熱い思いを拝聴することができた。新病院において構築された循環器疾患救急診療のハード面の整備とともに、生じる種々の問題も医療チーム全員のこころの集結で解決され、こころを育てる各専門チームのリーダーと病院指導部の懐の大きさであるという言葉が印象的であった。

1日目の特別講演では予定されていたオール巨人さんに代わり漫才師 大助・花子の花子師匠による「健やかか笑い」では会場を大いに沸かせるとともに、笑いの中に病院および医療従事者としてのあり方を考えさせられる内容でありました。2日目の特別講演として作家で日本財団理事長である曾野綾子氏の「人間を生かす力」では氏の熱心に取り組まれているアフリカ支援活動を通じての体験からの貴重なご示唆をいただきました。小生の

拙いメモを拾うと「人生の貧困とはなにか? : 今晩食べるものがないことである」、「髪が金髪になるような栄養失調がある」、「痛みを止めてもらうことができない人がどのくらいいるのか」などのアフリカの現状を述べられる中で、「日本人は薄情で非常識」であるが「南アフリカで命をかけて働いている神父さん(根本神父)もいること」、また「日本人は禁止することが好き」でさまざまな問題を生み出しているが、「今後~までできます」ということをいかに日常性にとりいれていくことが重要であること」、医療においては「セラペウオ : おつかえするということがなければ人を癒すことはできないこと」、「アレーグ : 奉仕貢献」、「アガベ : 愛 : お返しを要求しない愛が必要であること」等々心に残るお話を伺うことができた。また、聴衆のどなたか一人でもこういった国際医療協力に参加していただけるかたのであることを期待された。緒方貞子さんのご講演を拝聴した際にも感じたが、75歳後半の女性さ若さと元気さおよび行動力の広さについてもながら感心する。このような方々を特別講演の演者としてお招きいただきました岩坂先生には重ねて感服いたしました。

学術的な講演として、平盛勝彦先生による「生老病死と専門医」、谷口青洲氏による「トリ型インフルエンザの話題」、松原弘明先生による「末期の心不全への細胞治療」、西川伸一先生による「幹細胞と再生医学」、古川恵一先生による「各種重症感染症に対する適切な抗菌治療法について」等々巨星による講演が10題以上企画されて、会員の裨益することは多大でありました。シンポジウム、パネルディスカッション、ワークショップなどもメインテーマにそって「集中治療チーム全体で考えよう」と題して「集中治療におけるリスクマネージメント」および「集中治療での循環モニター」および「集

*姫路聖マリア病院救急部長・副院長

集中治療での栄養サポートチーム」の3つのシンポジウムが行われていた。小生は1日目第2会場にてワークショップ1「集中治療における循環器生理検査の How to」の座長を担当させていただき、タスクフォースモニターや Vigileo Monitor など視等級(天体の見かけの明るさの度合い)として現時点では5~6等星の新たな循環器モニターが輝きをまし2~3等星に明るさがましていくことを感じた。

一般演題として口演 233 題, ポスター218 題, 看護部門口演 129 題, ポスター43 題, 臨床工学部門口演 30 題と計 653 題の発表が行われ各会場では熱気をおびた活発な討論が展開された。

最初の2日間でランチョンセミナー 19 題, イブニングセミナー 14 題が組み入れいずれの会場も満杯

の状況で一部は長蛇の列をなすほどの盛況であった。

会長招宴, 会員懇親会も岩坂先生ならではのユニークな企画が盛りだくさんで私自身大いに楽しませていただき, この場をかりてあらためて御礼申し上げます。

集中治療の明日を照らすみごとな学術集会を企画し, 盛会かつ成功裏に収めました会長の岩坂壽二会長に敬意をはらいますとともに, 来年, 兵庫医科大学救急災害医学講座教授丸川征四郎会長のもと神戸で開催されます第34回日本集中治療医学会学術集会で新たな感動を覚えることを期待いたします。